都市空間におけるストリートパフォーマンスの誘発要因に関する研究
ーJR新宿駅南口周辺を事例としてー

宇野研究室　　4105033　近藤　哲朗

1. 研究の背景と目的

ストリートパフォーマンス(以下、パフォーマンス)は、日本の都市部に多く見られる人的活動の一種である。大阪大学の柏原、吉村らは「都市空間は多種多様なコミュニケーションの分布する場として捉えることが可能であり、望ましい都市の繁華街は、あらかじめ街を構成する商業施設や娯楽施設などの施設機能によって規定される活動に収まらない魅力的なコミュニケーションを誘発する空間特性を有していることが重要である」と指摘している註1)。ここでいわれているコミュニケーションを誘発する空間特性とは、一体どういう特性を備えたものなのだろうか。本研究では、都市におけるパフォーマンス誘発要因を空間特性という観点から検証、そしてその関係性を明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象

新宿駅南口、新南口、東南口周辺を対象とする。パフォーマンスにおける研究は、東京では原宿歩行者天国、恵比寿ガーデンプレイス広場、新宿歩行者天国、また、大阪や京都等でも行われているが、その対象は歩行者天国や広場などが主であり、都市の空間特性分析に焦点を当てた研究はない註2)。

3. 研究方法

① 資料収集・文献調査註3)
② 現地調査(アンケート調査, 実測調査, サンプリング調査)
③ 抽出した特定のエリアにおける物的、人的要素分析

4. 現地調査

4-1. パフォーマーへのアンケート調査

パフォーマーの実態とパフォーマンス空間特性把握のために、2008年6月30日から7月20日までの間4回に分けてアンケート調査を行った。内容は、パフォーマーに対して直接アンケート調査をするものである註4)。パフォーマンス実態は14項目に分類し、年齢、職業、パフォーマンス目的等を調査した。空間特性は既往研究註5)を参考に8項目に分類した**(表-1)**。

・アンケート調査考察

パフォーマー位置をプロットした結果、パフォーマンス場所には傾向がみられた。それをA, B, C, D, E, Fの6ヶ所に分類しパフォーマンスエリアと定めた。場所の特性として特に気にするものは、「後ろに壁があるかどうか」等の物的要素と、「人が見やすい場所でやること」「人が止まる場所があるかどうか」「人通り、人の流れ、活気」等の人的要素の二つであった。ここから、パフォーマンスの誘発要因には空間を構成する物的要素だけではなく、人的要素も大きく影響しているのではないかという推測ができる。

4-2. 実測調査

研究対象敷地**(図-1)**の実測調査をした。手摺、壁、柱、階段等の空間構成要素及び道路幅や点字ブロック等を実測した。10月8日の調査では何も変化がなかったのが、10月10日の調査では仮囲い位置が大きく変化していた。

4-3. パフォーマンスのサンプリング調査

10月8日から17日まで、18時から22時の間9日間サンプリング調査を行った。より具体的なパフォーマンス実態を調査すると共に、人的要素を把握することを目的とする。分析には、写真**(図-2)**、動画検証や、実測による平面図を用い、物的、人的要素の関係性を推察する。計40組のパフォーマーが確認された。

・サンプリング調査にあたって

パフォーマンスにおける物的要素、人的要素を再定義する**(図-3)**。物的要素は、物的な空間構成要素のことをいい、研究対象敷地においては図-3に示す15種類の要素のことである。一方、人的要素はパフォーマー, 観客, 通行人の3要素である。

・サンプリング調査考察

音楽型パフォーマンス註6)が確認された全パフォーマー57組中註7)53組であったことから、新宿には音楽型が多いことがわかった。さらに、57組中21組がエリアBであることと、14種類の物的要素がエリアBには点在するということから註8)、物的要素の多さがパフォーマンスに何らかの影響を及ぼしているだろうことが推測できる。次章以降、要素とパフォーマンスとの関係性を探るべく、エリアBに着目し分析を進める。

5. エリアBにおける要素分析

エリアBにおいてパフォーマンス空間を構成する物的要素及び人的要素を、滞留、流動という二つの観点から分析する。人的滞留要素としては、パフォーマーと観客、人的流動要素として、通行人が挙げられる。ここでの滞留は、その場に一定時間留まることを意味し、流動は留まらず動くことを意味する。物的滞留要素は、照明, 手摺, 人, 柱, 庇, 壁, 店舗, 仮囲いの8つ、物的流動要素として、仮囲い, 階段, エスカレータ, エレベータ, 改札, 点字ブロック, 自転車の6つがそれぞれ挙げられる註9)。ここでの滞留(流動)は、人的要素を滞留(流動)させるような働きを持つ。さらに、滞留を「パフォーマーにとっての引力」「パフォーマー, 観客にとっての引力」「観客, 通行人にとっての引力」「通行人にとっての引力」、流動を「通行人にとっての収束, 拡散」「観客にとっての斥力」「パフォーマーにとっての斥力」に分けると図-4のように表される。引力は物的要素が人的要素を近づける働きをもつ。斥力は、引力とは反対に物的要素から人的要素を離す働きをもつ。収束とは物的要素に人的要素が集まることを指し、拡散はその反対である註10)。エリアBにおいて、パフォーマーにとっては仮囲いと手摺が大きな滞留引力要素であり、反対に、点字ブロックは流動斥力要素である。観客にとっては、パフォーマーと同様の手摺, 人さらに庇, 柱が滞留引力要素である。通行人は、観客と同様の柱, 庇が滞留引力要素であり、階段, エスカレータ, エレベータ, 改札の4要素により収束、拡散される。つまり、パフォーマンス空間を構成する物的要素はパフォーマー, 観客, 通行人それぞれの人的要素によって作用する影響力が異なっているということがわかる**(表-2)**。図-4は表-2を図化したものである。12種類の物的要素と3種類の人的要素が点在するこの図は、表-2で得た各要素間の関係性を元に滞留、流動の様子を表している**(図-4)**。

6. 結論

前章までにわかった物的要素と人的要素の関係性より、魅力的なコミュニケーションを誘発する空間特性について考察できた。都市新宿におけるパフォーマンスはその誘発要因に物的要素と人的要素という二つの側面を合わせ持ち、それらは互いに影響を及ぼしている。特にエリアBでは、パフォーマーは照明, 手摺, 人, 仮囲い, 点字ブロックの5つに、観客は手摺, 人, 柱, 庇, 自転車の5つに、通行人は柱, 庇, 壁, 店舗, 階段, エスカレータ, エレベータ, 改札の8つに主な物的要素影響要因があることがわかった**(表-2灰色部分)**。さらに、表-2を図化することにより、一部ではあるが、都市空間における潜在的現象註11)を表出することができた**(図-4)**。本研究では新宿を事例としたが、今後は一都市のみならず他の都市でも調査分析を進めることでより確かなパフォーマンスの誘発要因が明らかになるだろう。

▼ 表-1 アンケート調査

アンケート調査	調査内容	2008.6.30	2008.7.1					2008.7.11				2008.7.20						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
パフォーマンス実態	パフォーマンス場所(当日,新宿)	東南口(上)	南口	新南口	新南口	南口	東南口(上)	新南口	南口	東南口(上)	東南口(下)	東南口(下)	東南口(上)	東南口(下)	南口	東南口(下)	新南口	南口
	パフォーマンス場所(当日以外)	新宿、代々木	／	大阪	新宿西口	新宿,渋谷,溝口,吉祥寺	／	／	／	／	東南口(上)	／	／	／	新宿新南口,池袋	／	渋谷,品川	／
	パフォーマンス型	音楽型	音楽型	音楽型	音楽型	音楽型	音楽型	音楽型	音楽型	音楽型	音楽型	音楽型	音楽型	音楽型	出展型	音楽型	音楽型	出展型
	パフォーマンス内訳	v,g,b	／	v,g,b,d	v(key)	v(g)		v,b,d(box)	v,d,g,b	v,g	v,d	v	g	v,t	illustrator	v,g	ボンゴ	illustrator
	パフォーマンス頻度(月単位)	6-10回	6-10回	2-5回	11-20回	11-20回	2-5回	2-5回	2-5回	6-10回	11-20回	11-20回	11-20回	6-10回	2-5回	6-10回	2-5回	2-5回
	パフォーマー名	BRING		Fly Ants	maria	イマイユウ	／	modern country	／	野村タロウ	トイミサイル	ダブルオレンジ	兄蔵	thesadsadplanet	tulip	Silent Sprout	／	ヨシカワナオヒデ
	年齢	20-29	20-29	20-29	-19	20-29	20-29	20-29	20-29	30-39	20-29	20-29	20-29	／	20-29	／	20-29	30-39
	職業	フリーター	／	会社員	フリーター	フリーター	／	学生	プロ	プロ	自営業	その他	プロ	その他	フリーター	その他	会社員	プロ
	パフォーマンス目的	自己表現、宣伝活動	宣伝活動	／	宣伝活動,その他	自己表現	友達作り	宣伝活動	／	自己表現,宣伝活動	宣伝活動	宣伝活動	生活手段,自己表現	宣伝活動	自己表現	／	／	宣伝活動
	構成人数	3	5	4	1	1	1	3	4	2	2	1	1	2	1	2	1	1
	男女比	m	m4,w1	m	w	m	m	m2,w1	m	m	m1,w1	w1	m	m1,w1	w	m1,w1	m	m
	時間帯	20:40	19:45	20:05	20:25	20:45	21:05	19:55	19:30	20:30	21:05	20:34	20:50	21:20	21:45	22:13	22:23	22:40
	パフォーマーの姿勢	立ち	腰掛け＋立ち	腰掛け＋立ち	立ち	立ち	立ち	立ち	座＋腰掛け	立ち	立ち	立ち	立ち	立ち	座	立ち	座	座
	客の入り(概算)	1	20	0	3	3	0	3	20	3	30	2	20	25	3	30	0	3
空間特性	場所の特性	yes	yes	no	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	no	yes	yes	yes	no
	特に気にする要因	／	／	／	／	／	／	お客さんが立ち止まれるスペース	人が見やすい場所でやること	人通り,壁	人が止まる場所があるかどうか	スピーカーとの位置関係	後ろに壁	／	人通り、警察	人の流れ、時間帯	活気と,見る人の立ち止まりさす	／
	観客とパフォーマーとの距離	3m	3m	／	8m	2m	／	2m	1m	3m	3m	2m	3m	3m	1m	1m	／	1m
	空間形態	T字路	T字路	T字路	直線	直線	変形Y字路	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	正面	手摺	仮囲い	改札	仮囲い	仮囲い	柱	改札	仮囲い	仮囲い	階段	仮囲い	手摺	階段	仮囲い	階段	仮囲い	仮囲い
	上部	庇	なし	なし	なし	なし	庇	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	背後	仮囲い	仮囲い	手摺	手摺	手摺	仮囲い	手摺	仮囲い	手摺	手摺	手摺	仮囲い	手摺	仮囲い	手摺	手摺	仮囲い

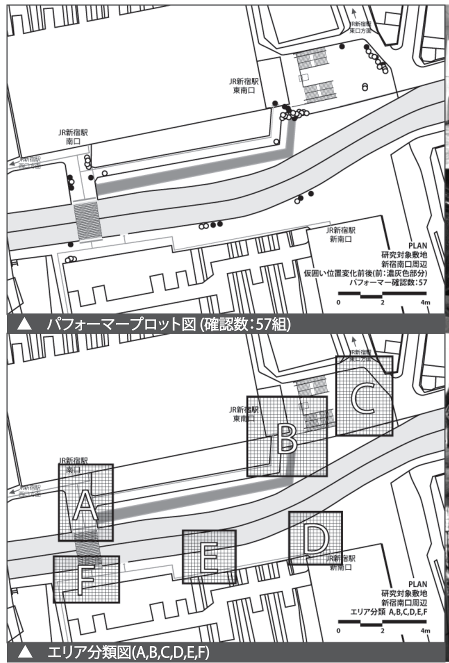
物的要素

仮囲い　壁　階段　ガードレール　エスカレータ
庇(屋根)　柱　エレベータ　店舗　改札
手摺　人　点字ブロック　照明　自転車(バイク)

人的要素

パフォーマー
観客
通行人

▲ 図-3 物的、人的要素



▲ パフォーマープロット図 (確認数：57組)

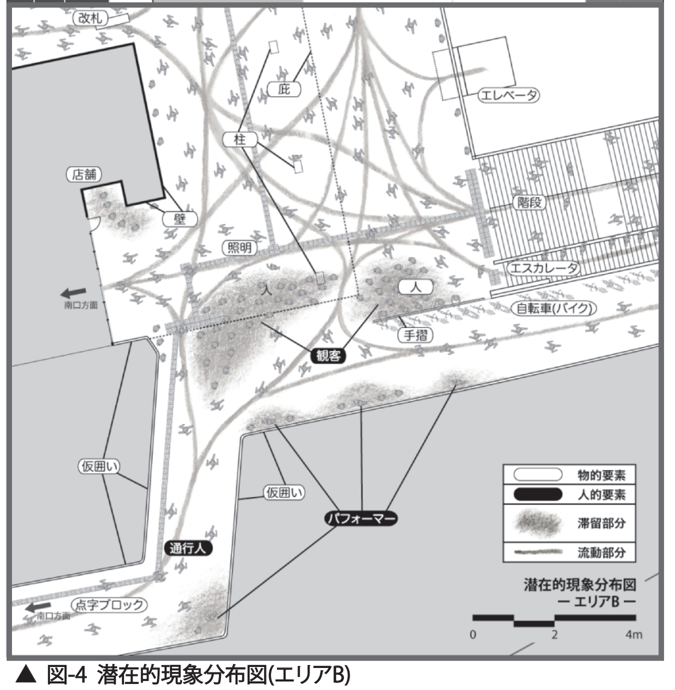
▲ エリア分類図(A,B,C,D,E,F)

▲ 図-1 研究対象敷地

図-2 現地調査の様子 ▲

▼ 表-2 物的要素と人的要素の関係性

Bエリアにおける物的要素と人的要素の関係性			人的要素 滞留 パフォーマー	人的要素 滞留 観客	人的要素 流動 通行人	人的要素別物的要素の影響力
物的要素	滞留	照明	位置関係から、パフォーマーは舞台照明のように照明を前から受けてパフォーマンスをする。駅周辺でパフォーマンスが多いのも照明で明るいからだろうか。			パフォーマーにとっての引力
		手摺	パフォーマンス場所を選択するにあたり間接的な選択要因になっていると思われる。それは観客の滞留しやすさ、手摺にチラシを置いたりしているケースがみられたことからも推測できる。	観客にとって最も滞留しやすい要素。観客は手摺に寄りかかったり座ったりする。直接触れることはなくても近くによりパフォーマンスを鑑賞するケースが多くみられた。仮囲いとの距離関係(3-4m)も一要因。	パフォーマンスが行われている際は手摺周りに観客が多く集まってくるため、通行人はぶつからないように通行している。	パフォーマー観客にとっての引力
		人	アンケート調査時に特に気にする場所選択要因として「人」というキーワードが挙げられたように、パフォーマーは人通りが多いところ、人が集まりやすいところをパフォーマンス場所として選択する傾向がある。	パフォーマンスを鑑賞する際、側に人(観客)が立つと、自分もそこに立って良いのだという安心感のためか集まりがよくなる場合がある(参考文献)	通行人にとって観客はパフォーマンスに興味を引かせる一要因であるが、時として通行の妨げになる場合がある。	
		柱		柱も手摺と同様、観客にとって滞留しやすい要素である。 寄りかかってパフォーマンスを鑑賞する人が確認できている。	壁と同様、長時間寄りかかっている人がみられた。パフォーマンスが行われているときは、主に観客が寄りかかっている姿がみられた。	観客通行人にとっての引力
		庇(屋根)	仮囲い変化前は庇があるところでパフォーマンスがみられたが、変化後はみられなくなった。	手摺や柱と違い直接の接触はできないが、 観客にとって滞留しやすい要素の一つ。	雨の日は特に庇の下を通ろうとする人が多い。	
		壁		時として寄りかかりながらパフォーマンスを鑑賞している観客の姿がみられた。	長時間寄りかかる人がみられた。待ち合わせに使用しているのだろうか。	通行人にとっての引力
		店舗			アイスクリーム屋に並んでいる人がみられた。	
	滞留／流動	仮囲い	パフォーマーがパフォーマンス場所を選択する上で最も引力となる要素。高さ2mくらいのものなので、壁と同様に扱われていることが多い。側に機材を置き、パフォーマンスをするケースが多く見られる。	仮囲いを背にしてパフォーマンスを鑑賞する観客がみられたが、壁とは違いあまり寄りかかることはしない。「仮」であることでの強度の不安感からだろうか。	仮囲いは滞留と流動二つの側面をもつ。長時間滞留している人がみられることから、待ち合わせ等に使用されている可能性がある(滞留)。一方、通路としての機能をもっている(流動)。	パフォーマーにとっての引力／通行人にとっての収束、拡散
	流動	階段		階段から上がってきた際、すぐには止まらず、ある程度歩いた上でパフォーマンスを鑑賞し始めるケースがみられた。	階段はエリアBにおいてもっとも面積の大きい流動要素である。多くの人が使用する。階段から上ってくる際、パフォーマンスから出される音が聞こえる。	通行人にとっての収束、拡散
		エスカレータ	よく選択されるパフォーマンス場所には上りではなく下りエスカレータが近い。	エスカレータと手摺の距離が近いため、手摺近くでパフォーマンスをみている人は、エスカレータで下る人とぶつからないようにする必要がある。	階段と同様よく使われる。 下りエスカレータなので、下る目的でエスカレータに使用する人は観客が通行の妨げになることもある。	
		エレベータ		エレベータ周りで静止している人が音楽型パフォーマンスを聴いているケースがみられた。	高齢者の方が使うこともあるが余り使用頻度は高くない。だが、エレベータ周りに集まる人は多い。	
		改札	活気のあるパフォーマンスは往々にして駅改札付近で行われているが、改札が近過ぎると滞留がしづらく逆効果を招く恐れもある。		階段とは対照にもっとも幅の狭い流動要素。多くの人が使用する。東南口改札から来た人は、下りエスカレータがある改札から遠い方の階段に来る人も多くみられる。	
		自転車(バイク)	パフォーマンス場所に近い位置にあるが、パフォーマンス場所を選択する上で直接的な要因にはなりえていないように思える。	自転車がある場合は、パフォーマーに対し手摺後ろ側でパフォーマンスを鑑賞するが、自転車がない場合は手摺前側で鑑賞する場合もみられた。	自転車を使用している通行人が確認できた。	観客にとっての斥力
		点字ブロック	パフォーマーは一度パフォーマンス場所を選択すると長時間居座る。そのためか、点字ブロック上でのパフォーマンスは確認されていない。	パフォーマンスを鑑賞している間はその場所にある程度滞留するためか、点字ブロック上でパフォーマンスを鑑賞する人は確認できなかった。	視覚障害者でない限りほとんど気にすることはないが、長時間(待ち合わせ等で)ブロック上に立つ人は確認できなかった。	パフォーマーにとっての斥力



▲ 図-4 潜在的現象分布図(エリアB)

脚注：1)(文献1)より　2)(文献1)(文献2)(文献6)(文献7)より　3)文献調査では、参考文献を元にパフォーマーの実態を把握し、アンケート調査用紙を作製する上で参考にした。　4)アンケート調査は、パフォーマーに書いてもらうアンケート用紙と、自らが答える裏アンケート用紙を用意した。　5)(文献1)(文献5)より　6)パフォーマンス型は(文献1)(文献9)より、音楽型、曲芸型、出展型、創作型、ダンス型、芸能型の6種類と定めた。そのうち現地調査で確認できたのは音楽型、曲芸型、出展型の3種類。　7)パフォーマーは、アンケート調査で17組、サンプリング調査で40組確認された。合わせると全部で57組ある。　8)エリアBにおける物的要素は照明,手摺,人,柱,庇,壁,店舗,仮囲い,階段,エスカレータ,エレベータ,改札,自転車,点字ブロックの14種類。以下エリア別物的要素数 A:5,C:6,D:5,E:4,F:5　9)物的滞留要素と物的流動要素には仮囲いがそれぞれ含まれている。仮囲いには二面性があり、パフォーマーにとってはパフォーマンスを行う引力となるが、通行人にとっては通路となり流動を促すものとなる。　10)ここでの収束,拡散は要素に対し、toではなくthroughの意味である。階段や改札は収束,拡散だが、店舗は収束,拡散ではない。　11)潜在的現象の「潜在的」とは、[表面に表れないで存在している(latent)]ではなく、[起こりうる可能性のある(potential)]という意味である。

参考文献：1)阪田弘一、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司「繁華街におけるストリート・パフォーマンスの実態とその発生場所の空間特性 -コミュニケーションを誘発する都市空間に関する研究-」日本建築学会計画系論文集、第541号、2001.3　2)伊藤倫子、山口有次、林田和人、中村良三、渡辺仁史「パフォーマンス空間における観客の行動特性に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集、1998.9　3)清水裕之「劇場の構図」鹿島出版会、1985　4)浜野安宏「人があつまる　-　浜野安宏ファッション都市論　-」講談社、1974.3　5)織田直憲、高柳英明、山口有次、中村良三、渡辺仁史「ストリートパフォーマンスを誘発する空間の研究」日本建築学会大会学術講演梗概集、(東北)、2000.9　6)大影佳史、小平弥史、川崎清「ストリートミュージシャンの演奏空間に関する研究その2　-京都における演奏空間の配置に関する調査・研究-」日本建築学会大会学術講演梗概集、(北海道)、1995.8　7)窪田麻里、大井さやか、上野淳「ストリート・パフォーマンスにおける人間集合について -パフォーマンス空間としての原宿歩行者天国-」日本建築学会大会学術講演梗概集、(東海)、1994.9　8)黒川智之、仙田満、川上正倫「都市の滞留空間が兼ね備える劇場性に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集、(関東)、2001.9　9)伊吹貫人、木多彩子、阪田弘一「都市のオープン・スペースにおけるストリート・パフォーマンスの実態とその空間特性 -コミュニケーションを誘発する都市空間に関する研究-」日本建築学会近畿支部研究報告集、(関東)、2002